

Marshall

LEGENDS

Bluesbreaker 1962

Rev. Oct 05, 2015

Softube ユーザーズマニュアル

© 2007–2015. Amp Room は、Softube AB, Sweden の登録商標です。Softube は、Softube AB, Sweden の登録商標です。Marshall, Super Lead, Plexi, 1959 に関連するロゴ、及びすべての視覚と聴覚のリファレンスは、ライセンスを受けて使用している Marshall Amplification UK の商標です。Valley People Dyna-mite、Trident A-Range、Tonelux、Tilt への視覚と聴覚へのリファレンスは、PMI Audio から書面による許諾を得て使用されている登録商標です。Tonelux、Tilt logo、Valley People、Dyna-mite に関連するロゴ、Trident、A-Range、Triangle のゴロはライセンスに基いて使用されている PMI Audio Group の商標です。Summit Audio Inc. は、Baltic Latvian Universal Electronics, LLC の登録商標です。すべての仕様は予告なく変更することがあります。無断複写、転載を禁じます。

その他の会社名、および本書に記載されている商品名は、各社の商標、及び登録商標です。他社製品に関する記載は、情報提供のみを目的としており、保証、推奨するものではありません。Softube は、これら製品のパフォーマンス、または使用に関して一切の責任を負いません。

Softube 製品は、特許 SE526523、SE525332、関連する特許/特許 WO06054943、US11/667360、US20040258250、EP1492081、EP1815459、JP2004183976 によって保護されています。

ユーザーへのソフトウェアへの権利は付属のソフトウェア使用許諾契約書(EULA)に準拠しています。

謝辞とライセンスについて

‘zlib’ general purpose compression library version 1.2.8 の **zlib.h** インターフェイス、April 28th, 2013。Copyright © 1995–2013 Jean- loup Gailly と Mark Adler。このソフトウェアの一部は、copyright © 2006 **The FreeType Project** (www.freetype.org)です。すべての著作権を保有しています。**WonderGUI** は、Tord Jansson のライセンスに基づき使用されます。© 2004, 2006–2014 Glenn Randers-Pehrson による **Libpng** のバージョン 1.2.6, August 15, 2004 からバージョン 1.6.12, June 12, 2014 までは、同じ免責にとライセンスに従って頒布されています。いくつかのコードは、copyright © 2008 **The NetBSD Foundation, Inc** が所有しています。**VST** は、Steinberg Media Technologies GmbH のソフトウェアであり、商標です。Mac OS X のヘッダーは、**Apple Public Source License** (APSL) の元でカバーされ、<http://www.publicsource.apple.com/apsl/> でご利用可能です。

免責事項

あらゆる努力は、このマニュアルに記載されている情報が正確であることを確認するために行われました。しかし、我々はミスをしている可能性があり、我々も人間であるということをご理解いただけますと幸いです。ミスを発見した場合、我々にお知らせください。マニュアルの後のバージョンで修正します。

サポート

Softube のウェブサイト上 (www.softube.com)では、よくある質問(FAQ)や、様々な他のトピックへの答えを見るけることができますでしょう。

サポート的な質問は、<http://www.softube.com>、にポストしてください。

我々は出来るだけ速やかにお答えします。Web: www.softube.com

E-mail: info@softube.com

Phone: +46 13 21 1623 (9 am – 5 pm CET)

もくじ

1	<i>Marshall レジエンド</i>	<i>5</i>
	Marshall Plexi Super Lead 1959	6
2	<i>ユーザーインターフェイス</i>	<i>7</i>
	メニュー	7
	Apollo Unison	8
	メーター	8
	モノ&ステレオ	9
	プリセット	9
	キーコマンド	9
	クレジット	9
3	<i>Marshall Bluesbreaker 1962</i>	<i>11</i>
	アンプのパラメーター	12
	チャンネルストリップのパラメータ	13
	キャビネット&マイク	15



1 Marshall レジェンド

UAD Marshall Legends バンドルでモデリングしている 3 台のギターアンプを誇張することは不可能です。これらは、Marshall の歴史の中でのマイルストーンを代表するだけでなく、Woodstock での Jimi Hendrix の耳がちぎれるようなギターソロ・パフォーマンス、Eric Clapton のウォームなクランチ・トーン、John Mayall and the Blues Breakers をはじめとするファットでスムーズなディストーション、1980 年代後期の Slash、Red Hot Chili Peppers の John Frusciante など多くのプレイヤーに愛用され、ロックンロールのサウンドを代表します。これらのサウンドやトーンはすべて再現可能ですが、それよりも多くのものが見つけれられます。これはまた、これらのモデルを開発する上で大きな役割を果たした Tony Platt (AC/DC Iron Maiden Motorhead) によって作成されたプリセットの長いリストによって試すことができます。



Marshall Bluesbreaker 1962

Eric Clapton は、John Mayall and the Blues Breakers とのその名の通りのタイトルのレコード名に使用して以来、Marshall 初のコンボアンプは Bluesbreaker というニックネームで呼ばれました。Bluesbreaker のアンプ・セクションは、ウォームで、歯切れの良いサウンドは、アルニコ・スピーカーを取り付けたオープンバック・キャビネットからチャイムのような 3 次元のサウンドを加え、ブルース以外の多くのジャンルにも本物のサウンドを提供し、貢献してきました。

2 ユーザーインターフェイス

Marshall Legends プラグインは、“見たそのまま”の製品です。素早く、効率的に操作できるよう直感的に数分以内に使い方を覚えることができます。メニューのような Softube のすべてのプラグインで同じような部分がありますが、それについてはこの章で説明します。プラグインの特定の詳細な情報に関しては、それぞれの章を参照してください。

メニュー

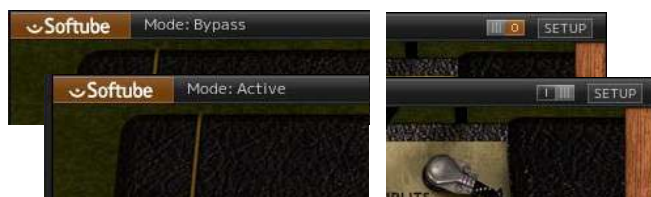
プラグインインターフェイスの下部には、いくつかのボタンと細い黒い列があります。ここでは例として、Bass Amp Room プラグインを使用しますが、他のプラグインでも同様です。

About Box About ボックスを開くと、バージョン情報を表示します。

Value Display マウスがコントロールしているノブの値を表示します。

Enable 有効/プラグインをアクティブにします。
off にするとバイパスします。

Setup プラグイン全体の設定を変更する場合にはグローバルオプションを使用します



Enable

Enable スイッチがオンになっている場合 (i)、プラグインはアクティブになり、オーディオ処理がなされます。オフ (0) にするとバイパスされ、オーディオ処理されません。バイパス時の CPU 消費率はかなり少なくなります。

“About”
ボックス

バリュー・ディスプレイ

Enable セットアップ



セットアップ

セットアップウィンドウでは、プラグインの特定のインスタンスに影響を与える設定を行います。例えば、“Show Value Display”オプションの選択を解除した場合、プラグインは再びそのオプションを選択するまでシステム上のすべてのバリューディスプレイはオフになります。

Windows と Mac の間では、異なるオプションに変わっている場合があります。また異なるフォーマットやプラグインでも同様です。一般的なオプションは以下の通りです。:

Show Value Display: プラグインの下でパラメーターと値の表示を有効にします。

Reverse Mouse Wheel Direction: (Mac OS のみ)
ノブの動きに合わせてマウスホイールの上下を変更することができます。(Mac OS のみ)

変更を有効にするには、ホストアプリ(DAW)を再起動する必要があります。

もし、マニュアルでこのオプションを設定する必要がある場合は、下記の場所にテキスト形式でそれらを見つけることができます。:

Mac OS: ~/Library/Application Support/
Softube

Windows: username¥Application Data¥

Apollo Unison

これらのプラグインを Apollo で使用する場合、Unison 機能に対応します。

Console アプリケーションの Unison スロット(最初のプラグインスロット)にプラグインをインサートすることによって Unison をアクティブにします。:

- ギターは、正確にオリジナル・アンプにマッチするレベルをインプットすることでプラグインは、オリジナル・アンプと同じように動作します。
- 異なるインプット・チャンネルやパッチを選択しても、ギターのリアルなアンプに接続した時と同じ反応が得られるようインプット・インピーダンスを調節してください。

ソフトウェア・ベースのギターアンプを使用する場合、インプット・レベルとインピーダンスは、もっとも重要な要因の2つで、これを今まではエミュレート、コントロールすることができませんでした。Unison を使用することによって、ギター方 Apollo を介してソフトウェアの全経路がオリジナルのハードウェアの完璧なレプリカであることを保証することができます。

その上、以下も得ることができます。:

- 2 つのインプット・ゲインと Apollo のマスター・アウトプットボリュームをリモートコントロールすることができます。

Unison、Apollo と Console アプリケーションの詳細については、UAD マニュアルを参照してください。

メーター

各チャンネルには、そのチャンネルから出てくるオーディオのレベルを表示するピークレベル・メーターがあります。このメーターは、**パンとメインアウト・ボリューム**の前にあります。

0 dBFS を超えたオーディオレベルは、メーター内の赤い LED で標示されますが、レベルは、メインアウトのボリュームとパンの影響も受けるので、必ずしもクリッピングを示すわけではないことにご注意ください。

プラグインには内部クリッピングは起こりませんが、0 dBFS でシグナルがクリップするかどうかは DAW に依存します。

モノ&ステレオ オペレーション

Marshall Legends プラグイン は、モノー ステレオ、またはステレオ・モードでの動作が可能です。アンプは常にモノラルですが、キャビネットは、別々にパンすることができます。

プリセット

収録されているプリセットは、Tony Platt と Chris George によって作成され、このアンプで音作りを行なうための優れたスタート地点を提供します。プラグインのプリセットの難点は、ユーザーがプラグインに対し、ゲインなどのセットアップによってクリーンなプリセットであっても歪む場合があり、逆にクランチ・サウンドでもクリーンになる場合があります。

その場合、目的のサウンドを得るためにギターやギター・インターフェイスのボリューム、または、**Volume I**、**Volume II** コントロールのいずれかを調整してください。Marshall アンプを使用する一般的な方法は、約 12 時の位置に**ボリューム・ノブ**を設定し、ギター**のボリューム・コントロール**でゲインを変更します。

キーコマンド

プラグイン内のすべてのナンバーとラベルはクリックすることができます。これは簡単に希望する値を入力、設定することができます。ラベルの上にマウスを乗せると指差し型のポインターに変更されます。

マウス

UP/DOWN マウスホイール

ノブやスイッチのパラメーター変更方法を選択

キーボード

ファインアジャスト \mathbb{H} (Mac) or **Ctrl** (Win),
パラメーターの値を微調整する場合に使用

パラメーターのリセット

Alt キーを押しながら、ノブやフェーダーをクリックするとデフォルト値にリセットされます。

いくつかのマイクを同時にソロ

Shift キーを押しながらソロ・ボタンをクリック

クレジット

Henrik Andersson Vogel - プロジェクト・マネージメント、
マニュアル&マーケティング Niklas Odelholm - プロダクト・デザイン、
キャビネット・モデリング、グラフィック・デザイン
Arvid Rosén - アンプモデリング Oscar Öberg - パワーアンプ・モデリング
Tony Platt - サウンド・デザイン Chris George - Marshall エキスパート&サウンド・デザイン
Paul Shyrinskykh - クオリティ・アシュアランス
Patrik Holmström - フレームワーク・プログラミング
Torsten Gatu - フレームワーク・プログラミング Erik Hampusgård - コンフィグレーション & ビルディング
Mattias Danielsson - サポート

ロンドンの Kore Studios でマイクをセッティングする Tony Platt





3

Marshall Bluesbreaker 1962

アンプについて

Eric Clapton は、1966 年に **John Mayall and the Blues Breakers** とのその名の通りのタイトルのレコーディングに使用した 30 ワット 2x12 の Marshall アンプを使用し、その後このアンプは“Bluesbreaker”と呼ばれるようになりました。

この Softube によるプラグイン・モデルは、1965 年以来 Marshall によって保存されていた 1962 年製 Bluesbreaker シリーズ 1 を元としています。

このプラグインを製作中、Softube は、Bluesbreaker を最高の方法でキャプチャーするために Marshall のプロダクト・エキスパートとエンジニア **Tony Platt** (AC/DC、Iron Maiden、Motorhead など多く) と音に作業を進めました。

Eric Clapton が車のトランクにちょうど入るようなアンプを望んでいたのも、Bluesbreaker は彼の知恵からヒントを貰いました。この話は反論されていますし、BluesBreaker を設計する可能性の高い理由は、Jim Marshall がシンプルに非常に人気のあった Vox AC30 に対抗する 2X12 スピーカー構成のコンボアンプを望んでいたということでした。

Bluesbreaker のアンプ・セクションは、Jim Marshall の最初のアンプのモデルとなった JTM45 トレモロ・アンプと同じです (JTM45 は商品名と違って 30 ワットのアンプでした)。8Ω スピーカーのバージョンの代わりに 2 つの 12 インチ Celestion T652 15 Ω のスピーカーをパルチックバーチ・キャビネットに納めました。

これを、このプラグインのために使用する特定のユニットとして選択しました。T650 スピーカーは、CELESTION のブルー・アルニコスピーカーT530 のストック・バージョンでした。それは Vox アンプのサウンドに大きく影響を与えたことで知られています。T650/T652 は、銀をスプレーし、Marshall は、Celestion のステッカーの上にゴールドのステッカーを貼りました。Bluesbreaker がアルニコスピーカーとオープンバック・キャビネットを採用したという事実は、通常セラミックスピーカーを搭載し、クローズ設計になっている他の Marshall キャビネットとはかけ離れた設計になっています。

パッチング

Bluesbreaker はハイとローにそれぞれ 2 系統のチャンネルを持っています。これらのチャンネルをパッチングすることで音のバリエーションを得ることができます。そしてそれはプラグインでも忠実に再現されています。

アンプのパラメーター

フロントパネルのコントロールは、本物のアンプと正確に同じ機能を果たします。

オン/オフ、スタンバイ

アンプのオン/オフをコントロールします。

トレモロ・スピード

トレモロのスピードを設定します。

トレモロ・インテンシティ

トレモロの深さ(強さ)を設定します。トレモロは、インプット 2 にだけ有効であることに注意してください。

プレゼンス

パワーアンプ・セクションでネガティブ・フィードバックを軽減するために高域が減衰していることにより、プレゼンスによって高域の量をブーストします。

オン/オフ
スタンバイ

トレモロ
スピード

トレモロ
インテンシティ

ベース ミドル

トレブル

ラウドネス
ハイ・トレブル

ラウドネス
II ノーマル

パッチ・スイ
ッチング

プレゼンス



ベース、ミドル、トレブル

アンプからの周波数成分を決定し、音色を調節します。

ラウドネス 1/ハイトレブル

チャンネル 1 のボリュームを設定します。

ラウドネス 2/ノーマル

トレモロを装備しているチャンネル 2 のボリュームを設定します。

パッチ・スイッチング

ハイ/ロー・インプットの異なる組み合わせをチャンネルに提供します。4 つのインプットの内のいずれかをクリックすると黒いケーブルでギターからのメイン・インプットとして選択します。再度インプットを選択すると、(短い白黒のパッチケーブルで)使用可能なパッチ適用パターンをローテーションします。

パッチ・スイッチング

インプットにパッチングを当てることで、異なるインプットゲインのカラーを得ます。インプット II は暗い響きを持ち、インプット I と組み合わせることでボリューム操作をすることで EQ のような色調の調整を行なうことができます。

パッチのもっとも多い一般的な方法は、インプット I に行き、ロー・インプット I からトップのインプット II へのパッチングですが、様々な組み合わせを実験してください！

インプットをクリックすることでセッティングを変更することができます。詳細については“パッチの切換え”を参照してください。

インプット・チャンネル

インプット I (トップ)

ブライト、ハイゲイン、1kΩ インピーダンス

インプット I (ボトム)

ブライト、ローゲイン、約 100kΩ インピーダンス

インプット II (トップ)

ダーク、ハイゲイン、1kΩ インピーダンス

インプット II (ボトム)

ダーク、ローゲイン、約 100kΩ インピーダンス

フロントパネルのパラメーター名をクリックするとデフォルト位置にノブをリセットすることに注意してください。

チャンネルストリップのパラメーター

チャンネルストリップは、緑のチャンネルストリップ・ステッカーや木の縁をクリックして開くことができます。これは同じ木の縁をクリックするか右にドラッグすることで再び閉じることができます。

メインアウト・レベル VU&クリップメーター

プラグインのメインアウト・レベルを示します。OL と表記される赤い LED は、チャンネルがオーバーロード状態であることを示し、メインアウトボリューム・ノブを下げなければならないことを意味します。

メインアウト・ボリューム

サウンドに影響を与えることなくプラグイン全体のアウト・レベルを設定します。



メインアウト VU L メインアウト VU R
プレゼンス クリップ

← キャビネットマイク
セレクト

← パン

← イン

← チャンネル・フェーダー

キャビネットマイク・セレクト

真空管、バルブ、ダイナミック等、使用するマイクのセットを選択します。マイク・ポジションについては、次のセクションの説明を参照してください。

イン

マイクチャンネルを有効/無効にします。

パン

ステレオ・パン内の望む位置にマイクチャンネルを配置します。

チャンネル・フェーダー

それぞれのマイク・チャンネルのボリュームを調節します。

キャビネット & マイク

Bluesbreaker は、イギリス、ロンドンのレコーディング・スタジオ Strongroom で様々なマイクを通してオリジナルの Marshall ブロックロゴの **Celestion T650** スピーカーで、真空管、FET、ダイナミックマイクを使用してレコーディングしました。

真空管マイク

ニアフィールドで使用する真空管(チューブ)・コンデンサーマイクのマイクセットを選択します。各チャンネル上のテープ・マークで示されているように Neumann U67s、while Coles 4038 and Telefunken ELA M 251 が用意されています。

FET マイク

ニアフィールドで使用する FET コンデンサーマイクのマイクセットを選択します。各チャンネル上のテープ・マークで示されているように Neumann U87s、SE Electronics Voodoo VR2、Telefunken ELA M 251 が用意されています。

ダイナミック・マイク

ニアフィールドで使用するダイナミック・マイクのマイクセットを選択します。各チャンネル上のテープ・マークで示されているように Shure SM57、Sennheiser M380、Coles 4038、Telefunken ELA M 251 が用意されています。

オフ(キャビネット、マイク無し)

Bluesbreaker アンプからの直接のサウンドが聴こえるようにキャビネットやマイク・エミュレーションをバイパスすることができます。これは通常快適なサウンドとはみなされません。

しかし、Softube Vintage Amp Room、Bass Amp Room、Metal Amp Room、Half Stack、Bass Amp Room 8x10 など他のキャビネットやマイクモデリングと組み合わせて使用することも可能です。すべてのプラグインは、アンプ・セクションをバイパスすることができるので、これらと Marshall Plexi ヘッドを組合せて新しいサウンドを作ること推奨されます。

